

相模原市の住宅地におけるヒナコウモリの保護記録

青木雄司・秋山幸也

Yuji Aoki and Koya Akiyama: Notes on Asian Particolored Bat *Vespertilio superans*
Looked after in a Residential Area of Sagami-hara City, Kanagawa Prefecture

はじめに

ヒナコウモリ *Vespertilio superans* は日本、中国、朝鮮半島、シベリア東南部に分布する小型のコウモリである。樹洞や人工建造物の隙間をねぐらとするため、樹洞を持つ大木の消失により個体数の減少が懸念され、国のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類 (VU)、神奈川県では減少種に記載されている。県内では箱根町(石原,1991)と大井町(石原,2002)で記録されているほか、山北町の丹沢湖畔(山口ほか,2002)、南足柄市、伊勢原市、清川村(以上、山口ほか,2005)の山間部にある建物で冬眠集団が確認されている。このように神奈川での報告は山間部が多く、その多くは冬期のものである。近県では、東京都で春期や冬期に山地部で確認されているほか、平野部でも確認されている(浦野ほか,2002; 重

昆・長岡,2005)。千葉県では鴨川市の海岸線沿いの住宅地で衰弱個体が保護され、これが千葉県における初記録となっている(浅田ほか,2005)。

著者らは2005年6月に相模原市で衰弱した個体を保護した(図1)。これは、県内における夏期の平野部での分布記録として新たな知見にあたるので、ここに報告する。

保護の状況

2005年6月29日8:30頃、相模原市千代田の6階建てマンションの階段踊り場(3階と4階の間)の床で、マンション住民の親子によって発見された。手を近づけた子どもに、うずくまったまま歯をむくなどしたため放置されたが、夕方まで同じ場所にいたため、階下に住む著

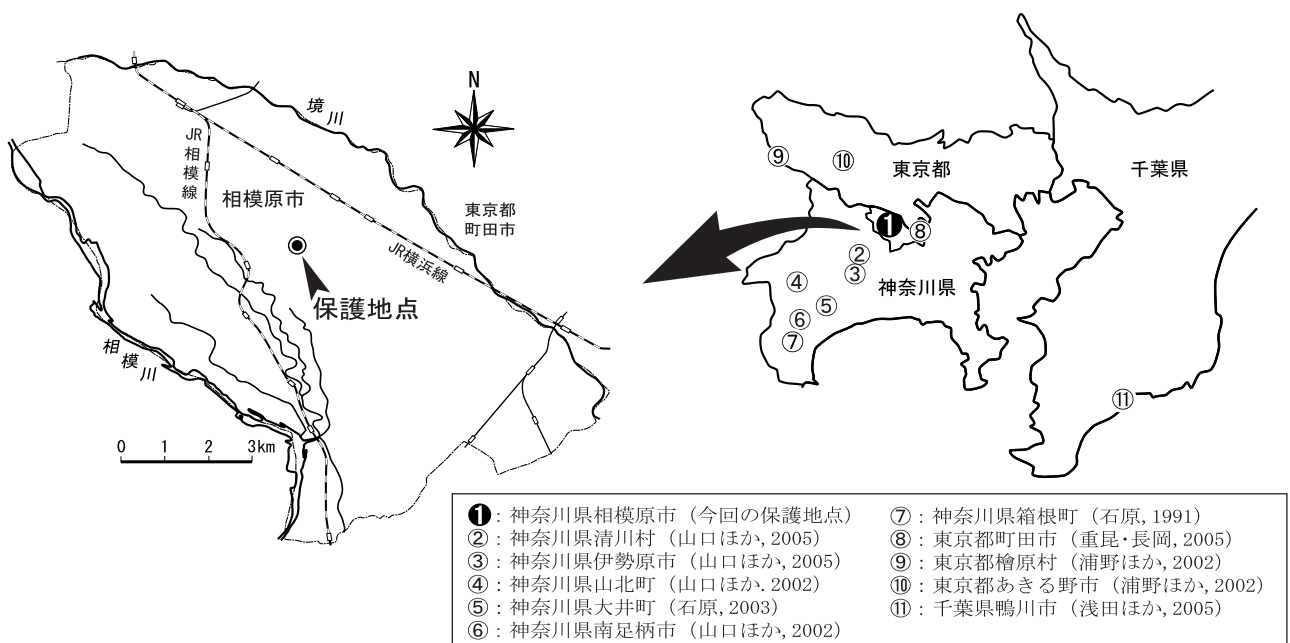


図1. ヒナコウモリの保護地点と県内及び近県における既知の確認地点

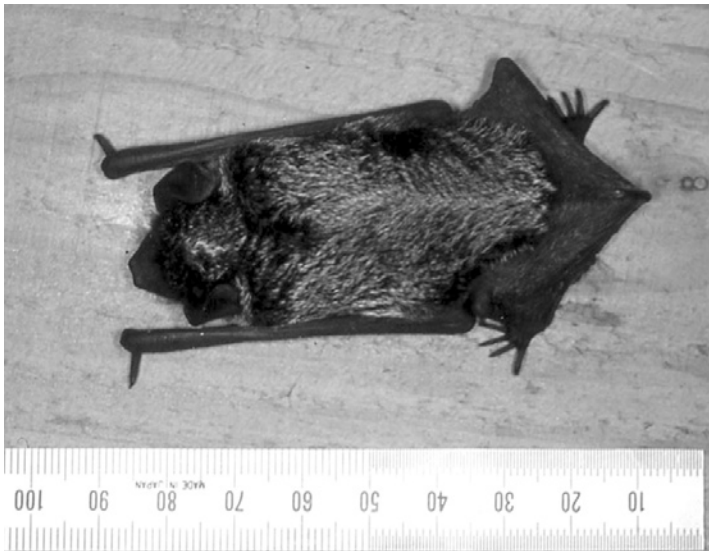


図 2. 保護されたヒナコウモリ（青木雄司撮影）



図 3. 保護されたヒナコウモリの頭部（秋山幸也撮影）

者の秋山が 17:00 頃に保護した（図 2, 図 3）。

相模原市は相模川によって形成された三段の河岸段丘上に都市が発達し、本個体が発見された地点は、段丘面最上段のほぼ中央にあたる。本地点は発見されたマンションと同規模の集合住宅や戸建て住宅が立ち並ぶ環境で、目立つ樹木は公園や緑道の植栽された中低木と、街路樹のケヤキ及びイチョウ程度である。1970 年代頃から急速に宅地開発が進んだ比較的新しい住宅地であるため、巨樹・巨木も近隣には見られない。

保護された個体について

保護された個体は衰弱して飛翔することができず、当日は砂糖水、翌日以降は水とミルワームを与えた。30 日の夕方に著者の青木が保護を引き継ぎ、ミルワームを与えた後に計測したところ前腕長 51.2mm、体重 14.4g のオスであった（表 1）。また、25KHz で超音波を出していることをバットディテクター（ULTRA SOUND 社製 MINI-3）で確認した。

衰弱した理由は不明であるが、毛の中にはノミ類やダニ類の外部寄生虫が肉眼で確かめられ、ピンセットを用いて可能な限り駆除した（ノミ類 6 匹、ダニ類多数）。

室内で飛翔できるようになったことを確認し、7 月 3 日、保護したマンションにおいて放野した。放野は、コウモリ用の巣箱（バットボックス）に個体を入れた状態でベラン

表 1. 保護記録

種名：ヒナコウモリ	<i>Vespertilio superans</i> Thomas, 1899
性：	オス
同定及び計測者：	青木雄司
発見年月日：	2005 年 6 月 29 日
発見場所：	神奈川県相模原市千代田 4 丁目 (標高約 110m)
前腕長：	51.2mm
体重：	14.4g (発見第 2 日目)
放獣年月日：	2005 年 7 月 3 日

ダに静置し、自ら飛び立つのを待った。バットボックスから飛び出す前は、チキチキチキと可聴域のかなり大きな声を出した。なお、保護した個体の対応については神奈川県自然環境保全センター野生生物課に相談し、指示を仰いだ。

おわりに

多くのコウモリ類がいまだ、どこで、どのような環境を利用して生息しているのかについて、よくわかっていないのが現状であり、ヒナコウモリもそのひとつである（山口ほか, 2005）。このような中で、今回報告した、平野部の住宅地での保護記録がどのような位置づけとなるのかを論ずるには、生息記録情報のさらなる蓄積が必要である。今後、レッドデータブック記載種である本種の保全を検討する上でも、都市緑地や社寺、住宅敷地内などに点在する巨樹・巨木の樹洞及び、人工構造物等において生息確認調査を行い、本種の分布とその季節性を明らかにしていくことが重要と考えられる。

謝 辞

箱根町立森のふれあい館館長の石原龍雄氏には、分布記録について多くの情報をいただいた。また、第一発見者の斉藤裕香氏とそのご家族は、保護収容後の扱いを著者らへ一任して下さい。以上の方々に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 阿部永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 北海道.
- 浅田正彦・立川浩之・高山順子・村田明久・前田喜四雄, 2005. 千葉県におけるヒナコウモリの初記録. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告, 8(2): 49-51.
- 石原龍雄, 1991. 箱根の哺乳類, 35pp. 大涌谷自然科学

館，神奈川．
石原龍雄，2002. 大井町の動物哺乳類．大井町史別編
自然，pp. 5-19. 大井町，神奈川．
重昆達也・長岡浩子，2005. 東京都町田市で保護された
ヒナコウモリ．コウモリ通信，**13**(1): 5-6.
浦野守雄・重昆達也・高水雄治，2002. 東京都奥多摩
地域のコウモリ類 (1) あきる野市，青梅市，檜原
村における採集記録．東京都高尾自然科学博物
館研究報告，(21): 13-20.

山口喜盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子，2002. 丹
沢山地におけるコウモリ類の生息状況．神奈川自
然史資料，(23): 19-24.
山口喜盛・曾根正人・山口尚子・渡辺直子，2005. 神
奈川県で見つかったヒナコウモリの冬眠集団につ
いて．神奈川自然史資料，(26): 49-51.

(青木：日本哺乳類学会，秋山：相模原市立博物館)